

子どもを取り巻く環境には、物的環境と人的環境があります。これらの環境を整備し、安心して学べる環境をつくるのが、児童生徒の学ぶ意欲を高める上で重要なポイントです。

まず、教室内外の物的環境についてです。きれいに整理・整頓されていることはもちろんですが、児童生徒が学ぶ場であるという視点が不可欠です。例えば、現在学習している内容に関する本が手に取れるように置いてあることや、資料が掲示されているといったことです。授業で学習したことについて興味や関心が高まったときに、関連する本や資料が目に触れる、あるいは手に取ることができる環境にしておきます。

多くの教室には、児童生徒の学習の成果が掲示されています。こうした学習の成果も、子どものやる気を高めるきっかけとなります。配慮すべき点は、作品が曲がっていたり、折れていたやしないよう常時点検し、大切に扱われていることが子どもにも感じられるようにすることです。このことは子どもの精神的な安定につながります。

次に、教師や友達などの人的環境についてです。学ぶ意欲をはぐくむ上で、教師は、子どもにとって特に重要な人的環境です。「先生は、自分のよいところを見てくれている」「温かい目で見守ってくれている」「自分に期待をかけてくれている」と思えることが、学ぶ意欲の土台となる安心感につながります。

一人一人を大切に受け止め、様々な教育活動の中で、子どもを生かし伸ばしているこうとする教師の姿勢は、子どもたちに伝わり、子ども相互の人間関係にも影響を与えます。この点に留意し、学級内の人間関係づくりに努めなければなりません。「発表を真剣に聞いてもらえる」「間違っても、笑われない」など、学級の雰囲気によければ、子どもは萎縮せずに学習活動に取り組むことができます。

教師の受容的な態度と、子ども同士が互いに認め合い高め合おうとする雰囲気が、安心して学べる環境と言えます。

なお、栃木県教育委員会では、学びに向かう集団づくりや子どもが意欲的に取り組む授業づくりの資料として、リーフレット「あなたは、学業指導を知っていますか！（平成21年）」を作成しましたので、参考にしてください。

安心して学べる環境づくりのポイント

〔物的環境〕

○ 学びたくなる環境を整備する

- ・学習している内容の資料を掲示したり、調べる本を教室に準備しておいたりする。
- ・学習の成果が分かる子どものワークシートや作品などを丁寧に掲示する。
- ・作品には、教師からの温かい評価のコメントや友達からの言葉を添える。

〔人的環境〕

○ 子どもの視点に立ち、子どもを肯定的にみる

- ・子どもは「もっとできるようになりたい」などの向上心をもっていることを、教師が認識する。
- ・子どもの姿を丁寧に観察し、発想や考え方、活動の仕方などのよさやつまずきの原因などを見抜き、前向きな言葉かけをする。
- ・予想外の発言に対してすぐに否定するのではなく、その発言に至った理由を聞き、子どもの思考過程の理解に努める。

○ 子どもの意思を尊重し、自発性を育てる

- ・学習のルールを決めておく。ただしルールや型を強調しすぎず柔軟な対応をする。
- ・「やってみよう」「こう学びたい」などの欲求を大切に、課題の与え方や授業形態の組合せなどを工夫する。
- ・自分の課題を見つけられるように支援し、自分の力で解決させて賞賛する。

○ 意図的に働きかけて、一人一人の子どもを生かす

- ・学び合う場や協力し合う場を意図的に設定する。
- ・活動の様子を見守り、消極的になりがちな子どもの意見を取り上げるなど、友達のよい考えや長所に気付けるように支援する。
- ・学び合いの様子を丁寧に観察し、取り上げられなかった意見の中によさがある場合には、教師が取り上げ、広めるようにする。



○ 学び続ける姿を通して、学ぶ意義を伝える

- ・教師自身が様々なことに好奇心をもち、学び続ける姿を示す。
- ・自らが関心をもっていること、読書や経験から得たことなどについて子ども達に伝える。
- ・学問、スポーツ、芸術など様々な分野で活躍している人の生き方を紹介する。

